

令和7年度 第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

【次第】

日時 令和7年8月26日（火曜日）10：00～11：30

場所 横浜市開港記念会館 2階 会議室6号室

1 開会

- 海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康
- 神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄

2 報告

(1) 令和7年度の主な取組状況について

(2) 調査研究部会の進捗について

※書面報告のみ

・海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

3 議題

(1) 今後のインクルージョンへの理解・啓発に係る取組について

(2) 教育支援コーディネーターの役割と現状について

(3) 令和7年度 有識者等による外部評価について

(4) 令和8年度 有識者等によるアドバイザー委嘱について

4 事務連絡

◇第3回調査研究部会 10月30日（木曜日）9：30～11：30

（場所：海老名市教育支援センター 学習室）

◇第3回推進会議 2月9日（月曜日）15：00～16：30

（場所：えびなこどもセンター 2階 201会議室）

（配付資料一覧は裏面）

【配付資料】

- (資料1) 令和7年度の主な取組状況について
- (資料2) 調査研究部会の進捗について
- (資料3) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について
- (資料4) 今後のインクルージョンへの理解・啓発に係る取組について
- (資料5) 海老名市の教育支援コーディネーターについて
- (資料6) 令和7年度 有識者等による外部評価について
- (資料7) 令和8年度 有識者等によるアドバイザー委嘱について

(参考資料1) 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 設置要綱

令和7年度 第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 名簿

【構成員】

1	海老名市教育委員会	教育長	伊藤 文康
2		教育部長	江下 裕隆
3		教育支援担当部長	麻生 仁
4		教育部次長	吉川 浩
5		教育総務課長	近藤 直樹
6		就学支援課長	山田 圭
7		学び支援課長	田中 歩
8	神奈川県立総合教育センター	教育支援部長	大磯 美保
9	県央教育事務所	指導課長	町田 一則
10	神奈川県立えびな支援学校	校長	林 麻佐美
11	神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
12		教育参事監（学校教育担当）	増田 年克
13		インクルーシブ教育推進担当部長	篠原 朋子
14		インクルーシブ教育推進課長	石井 晴絵

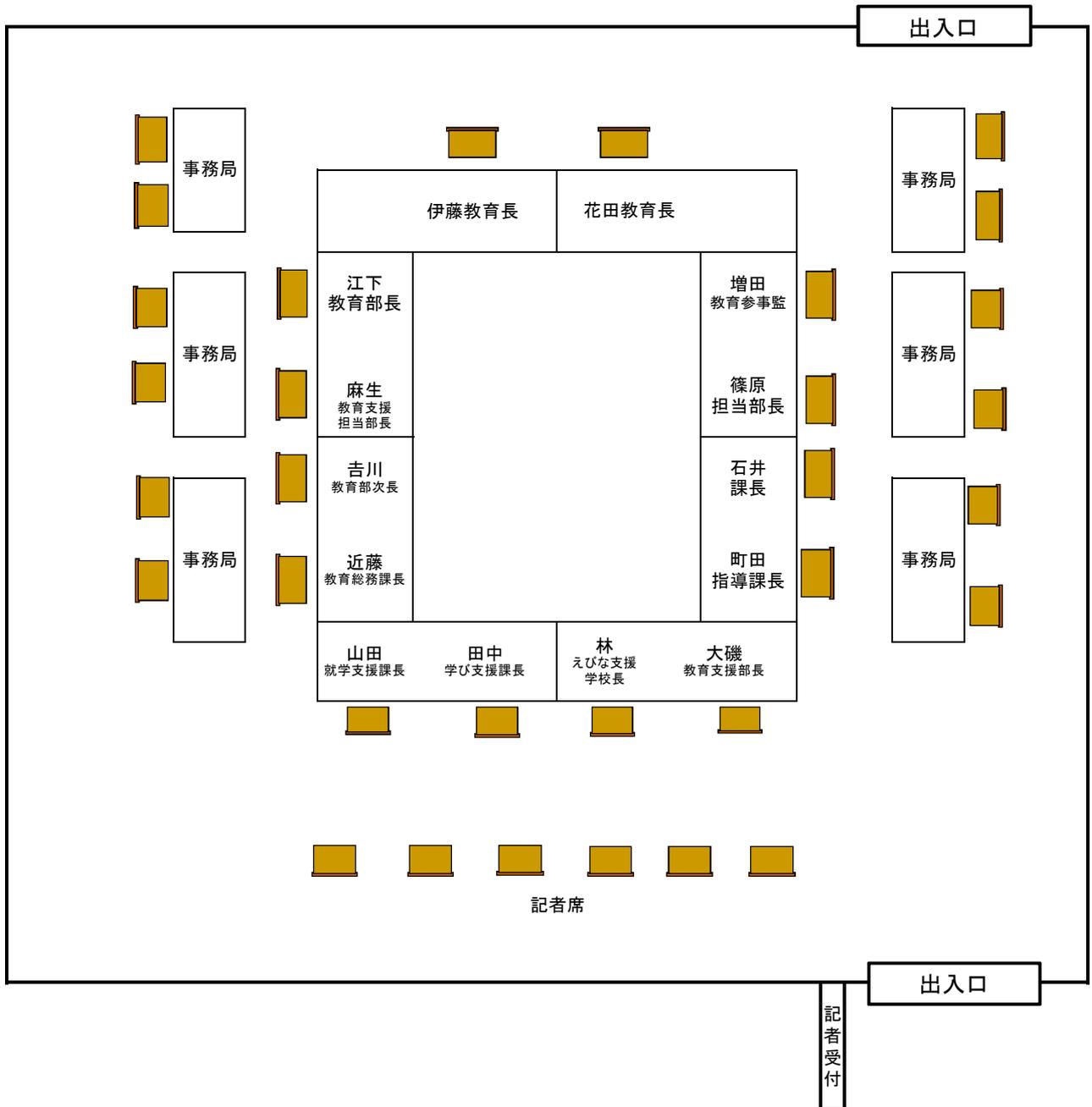
【事務局】

15	海老名市教育委員会	教育支援センター所長	小藺 洋
16		教育支援課指導係 指導主事	五十嵐 光
17		教育支援課支援係 指導主事	豊山 花林
18		教育支援課支援係 指導主事	小原 瑠美
19	神奈川県立総合教育センター	学校教育支援課 指導主事	高木 正樹
20	神奈川県教育委員会 インクルーシブ教育推進課	課長代理 兼 事業調整グループ GL	中川 真紀代
21		事業調整グループ 副主幹	花田 竜也
22		指導グループ GL 兼 指導主事	二宮 雄治
23		指導グループ 推進市町村担当班長 兼 指導主事	伊藤 紀貴
24		指導グループ 指導主事	川原 那花
25		指導グループ 指導主事	村井 宏行

令和7年度第2回海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

令和7年8月26日(火)10:00～ 横浜市開港記念会館 2階 会議室6号室

【席次表】



令和7年度の主な取組状況について

A 「みんなでめざす」

○対話の場の開催

○教育長全校朝会訪問（こども向け）

- ・ 6月から開始し、小学校3校、中学校2校実施
- ・ 教育長自らが全校児童生徒と教職員に対し、「こどもたちはひとりひとりが違う存在で、人と比べることは必要がないこと。多様なひとりひとりのこどもたち、そして、多様な教職員と力を合わせて、素敵な学校をつくってほしい。」という趣旨のメッセージを伝えている。

○保護者向け

- ・ 6月から開始し、小学校2校、中学校1校実施。延べ37名参加
- ・ 市教育委員会から、フルインクルーシブ教育の理念や方向性、取組計画をお伝えしている。参加者からは、教師や学校の負担、こどもたちの評価や進路などについて、質問やご意見をいただいた。

○えびな支援学校教職員向け

- ・ 7月25日（金）開催 75名参加
- ・ 市教育委員会から、フルインクルーシブ教育の理念や方向性、取組計画を説明した。
- ・ 方向性への理解、共感を得られた。地域の学校を知る必要性や、交流の必要性などご意見をいただいた。

○市民学習会の開催

○7月17日（木）10:30より海老名市文化会館小ホールで開催 100名参加

講師：野口 晃菜 氏（一般社団法人UNIVA理事）

- ・ 「今までの当たり前を見直してみよう～インクルージョンの視点から～」というタイトルで、参加者自身の当たり前を見直しながら、こどもへのかかわり方や学校づくりなどをインクルージョンの視点でアップデートしていく必要性をお話しいただいた。

（参加者の声）

- ・ インクルーシブな学校や世の中、考える人が増えれば、生きづらさを抱える人や、不登校も減るだろうなと感じました。こどもたちにもぜひ聴いてほしい
- ・ ふつうについて考えることがなかったので改めて考えると自分の中のふつうは他の人にとってふつうではないと感じ、他の人のふつうも自分とは違っていても「そうなんだ」と受け入れることが必要と感じた。小学校からふつうについての授業があり、この子たちがインクルージョンな考えをもって大人になり、より生活しやすい社会

を、作ってくれと変わってくるのではと思ってしまいました。

- ・自分の価値観を見直すことができた
- ・制度、多様であることを認める社会に変えるためにどうするか考えを変えたりさせられた講演でした。まずは一定時間いすに座って前を向いて授業を受けるという授業スタイルを変える（これは教員の意識と保護者の意識を含めて）ことから始める必要があると思います。多様性のある子どもを受け入れると同時にそれが求められると思いました。
- ・話を聞いていて、これまでの自分の子育てがどうだったのか、障がいのある子どもを育てていますが、自分の考えを押しつけていたのではないかと考えさせられました。
- ・自分が思っていた「ふつう」が他人にとっては「ふつう」ではないことに気が付きました。また「ふつう」や「あたりまえ」を押し付けるのではなく、様々な多様性に自分が思えるようになることが大切と気づきました。

B 「みんなで支える」

○学級をホームにする研究

○各校ごとに取り組みを進めている。

- ・教職員のインクルージョンへの意識醸成
- ・すべてのこどもが学級にいることを前提とした学級のあり方及び授業づくり
- ・すべての教職員ですべてのこどもを見るという意識のもと、教職員の役割分担を考え、支援を行っている。

○スペシャルサポートルームと心の教室の活用推進

○各校ごとに、多様なこどもたちが安心して過ごすことができるように、環境面の工夫や体制構築に取り組んでいる。

- ・担任を中心に多くの職員が教室に顔を出すようにし、児童生徒に声をかけている。
- ・職員の授業時間以外の時間をもとに、必ず教室に職員を配置している。中学校では、教科担当を配置し、学習できる環境も整えている。
- ・すべての教職員ですべてのこどもを見るという意識が広まりつつある。

C 「みんなで見直す」

○学校教育活動での取組

○各校の取組の一例

- ・ひとりひとりに合った学びを実現するために、「自由進度学習」の研究に取り組んでいる。
- ・学習のユニバーサルデザイン化を進め、板書の工夫やICT機器の活用や合理的配慮を含む、多様な学びを実践している。
- ・全教員が授業時間以外の1時間を支援級サポートの時間とし、すべての子どもをすべての教職員で見るという意識醸成を図っている。また、交換授業を行っている。
- ・学校の様子をあまり知らない未就学児の保護者に対し、小学校を見学できる日を設定し、教育支援コーディネーターと一緒に校内を回り、様子を見ていただく場を設けている。
- ・学校長が「学校長だより」を配信したり、校内グループで通信を配信したりして、インクルージョンの意識啓発を行っている。
- ・職員室の座席配置では、すべての子どもについて声をかけたり話し合ったりできるように、支援級の職員を中心に配置する工夫を行っている。
- ・校内にインクル掲示板を設置し、インクルーシブな考え方を学校や保護者、地域全体で共有している。
- ・学校行事の反省や振り返り時において、「インクルーシブの視点」という項目を設け、全職員の意識醸成を図っている。

D 「みんなで整える」

○教室の環境整備

○各校ごとに工夫改善を図っている。

- ・「幼保小の架け橋プログラム」の一環として、小学校1年生の教室では「スタートカリキュラム」の中で、入学後初期段階でのグループ席の時間を多くし、人間関係づくりに重点を置いた学習活動を取り入れることで安心して過ごせる環境づくりを意識している。また、教室内にフロアマットを敷いて、児童が遊んだり学んだりする場所を選べるようにするなどの工夫をしている。
- ・市教委から配付した目盛付デジタル時計、フロアマット、パーテーション、天然木長机等の活用も図りながら、すべての子どもが安心して学ぶことができる環境づくりを進めている。

調査研究部会の進捗について

○ 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、推進会議で協議された研究、企画、実践内容や、想定される課題について調査研究を行う。

○ 調査研究内容

- A 「校内支援体制の充実」
- B 「就学相談のあり方」
- C 「すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境整備」

○ 調査研究方法

- ・ 現行の法令、通知を洗い出し、現行制度でできることを明らかにし、課題を整理する。
- ・ 事例を収集し、研究を行う。

○ スケジュール

【第1回部会】 令和7年 6月20日（金）Zoom会議

- ・ 第1回推進会議での外部評価及び会議の報告
- ・ 令和7年度海老名市のフルインクルーシブ教育の取組について
- ・ 調査研究内容について確認

【第2回部会】 令和7年 8月18日（月）集合開催

- ・ 調査内容報告、共有、課題の整理 ⇒ 必要に応じて追加調査
- ・ 調査結果に基づく研究、分析

【学校見学】 令和7年 10月 2日（木）

【第3回部会】 令和7年 10月30日（木）

- ・ 調査結果報告、取り組める内容の整理

【第4回部会】 令和8年 1月頃

- ・ 調査結果をもとに推進会議に向けた提言作成
- ・ 次年度の取組について検討

○ 調査内容・方法

A 「校内支援体制の充実」

県内教育相談コーディネーターおよび市内教育支援コーディネーターの現状と課題について
(配置状況、授業持ち時数、校内での動き等)

(課題)

- ・ 教育支援 Co を中心とした校内の支援体制について、各校ごとの取組をさらに充実させていく必要があること。
- ・ 教育支援 Co の役割をすべての教職員、保護者、地域の関係者に対して、分かりやすく周知する必要があること。
- ・ 教育支援 Co が子どもの様子を見取り、教職員間で情報共有を図るなどして役割を果たすためには、学級担任と兼務せず、授業時間数も削減していく必要があること。
- ・ 教育支援 Co が必要な資質を身に着けるために、これまでの教育相談 Co に係る研修を基礎にしながら、内容を工夫していくこと。

(方法)

- ・ 県内教育相談 Co および市内の教育支援 Co の配置状況や持ち時数、校内での動きや研修の状況を調査することにより、フルインクルーシブ教育推進における教育支援 Co の役割及び校内支援体制における位置づけを明確化する。県内はインクルーシブ教育推進課と総合教育センター、市内は海老名市教育委員会で調査し、結果をまとめる。

- ・教育支援 Co の専任化が校内支援体制の充実にどのような効果を発揮するかを検証する。

(進捗)

- ・海老名市の教育支援 Co の役割について協議
- ・現状の教育支援 Co の業務状況の確認
- ・アンケート調査をもとに、教職員の意識分析

B「就学相談のあり方」

現行の市の就学相談、教育支援委員会のあり方、スケジュールについて

(課題)

- ・教育支援委員会が、特別支援学校や特別支援学級などの就学先を協議する場から、地域の学校の学級においてどのような支援が必要となるかを協議する場となっていくこと。
- ・地域の学校の情報及び支援の様子が、十分に保護者へ伝わるよう、見学の機会をさらに充実させていくこと。
- ・地域の学校を選びやすくなるような、就学相談の周知およびスケジュールについて、検討を進めていくこと。

(方法)

- ・就学相談や教育支援委員会について他市町村の情報収集
- ・課題の整理（就学相談、教育支援委員会のスケジュール等について）
- ・国立特別支援教育総合研究所は、就学相談に係る情報提供
- ・今年度から始めた、5～6月未就学児保護者学校見学の様子を調査し、成果を検証
- ・特別支援学校から地域の学校に在籍変更した件を調査し、経緯と現状を確認する。

(進捗)

- ・就学相談・教育支援委員会の目的やスケジュールについて協議
- ・他市町村の就学相談のあり方について参考になるものはないか検討
- ・5, 6月に行った未就学児保護者学校見学の結果から、今後に向けた実施方法について協議

C「すべての子どもが安心して学ぶことができる環境整備」

環境整備の調査について

(課題)

- ・学級における教育環境について、インクルーシブな視点であらためて見直し、必要な工夫改善を予算措置も含めて検討していくこと。
※ここでいう教育環境とは教室、校内の教室配置、職員室の配置等

(方法)

- ・海老名市内 19 校においてインクルーシブな視点から考えられている教室環境、教室配置、職員室配置の調査、及び I C T 環境の確認
- ・県内の他市町村の校内学級等環境調査
- ・国立特別支援教育総合研究所から学級環境に係る情報提供
- ・令和 7 年度に設置した物品（目盛付デジタル時計、ジョイントマット、パーテーション）の使用状況等の確認

(進捗)

- ・県内および市内小・中学校の環境整備の現状及び工夫改善報告
- ・子どもひとりひとりの学びと成長を支えるインクルーシブな授業とはどういうもので、どのような環境整備が必要であるかについて協議
- ・今後の環境整備に必要な物品について協議

令和7年度 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

1 設置目的

フルインクルーシブ教育推進のため、本事業の目指す姿を共有し、課題を整理しながら実現に向けての協議を行う。

2 取組内容

「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現」

- ・フルインクルーシブ教育推進として、教職員、保護者、市民が現状の学校のあり方について協議し、みんながともに学べる学校とはどういうものかを協議する。
- ・みんながともに学べる学校づくりへの課題を整理し、解決方法を協議する。
- ・インクルージョンの視点を持ち、支援体制や授業づくりに効果的な方法を協議する。
- ・市民学習会の運営について協議を行い、市民会議の設置に向け準備する。

3 スケジュール

- ・第1回 令和7年 5月29日(木)
- ・第2回 令和7年 7月23日(水)
- ・第3回 令和7年 11月21日(金)
- ・第4回 令和8年 2月25日(水)

4 構成員

1	【有識者】スーパーバイザー
2	小学校保護者1名
3	中学校保護者1名
4	障がい者団体より3名
5	えびな支援学校より1名
6	神奈川県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 指導主事
7	小学校校長1名
8	中学校校長1名
9	小学校教育支援コーディネーター1名
10	中学校教育支援コーディネーター1名
11	海老名市教育委員会 教育長
12	海老名市教育委員会 教育部長
13	海老名市教育委員会 教育支援担当部長
14	海老名市教育委員会 教育部次長
15	海老名市教育委員会 就学支援課長

5 開催状況

【第1回】

○学級をホームにする取組について意見聴取

○主な意見

- ・昨年度まで通っていた小学校では、「通常級をホームに」という取組のイメージのような感じで対応してもらっていた。中学校になると、通常級の子どもとの関わりが無くなってしまったなど感じている。
- ・教職員の意識の改革も早急にやっていく必要を感じているところ。当たり前のことだけど、中学校は、先生が毎時間変わる、というストレスもある。
- ・通常級がホームということだが、通常級にいることでの伸びもあるが、通常級を強く勧められるのは苦しいことも。子ども本人の意思をしっかりと聞いていくことが大事なのでは。
- ・我々がめざすのは共生社会である。共生社会になっていくためには教室が共に生きる場でなくてはいけないと考える。教室は分け隔てがあってはならない。
- ・何かしらの特性があるのはみんな同じではないか。最初は抵抗があるかもしれないが、それでも一緒にいることで変化していく。

【第2回】

○今年度より全ての未就学児を対象に行った小学校見学について意見聴取

○主な意見

- ・現時点で保護者が「知りたいこと」を解消していける場や方法があるとよい。
- ・保護者や本人に、ぜひ小学校に来てください、ということが伝わっていたのかどうかポイント。
- ・保護者は「噂」で学校や支援級の話聞くこともある。実際に見せてもらうことが一番よい。
- ・年長の保護者からの評判はとて面白い。ホントに助かった、という声を多く聞いた。

○学級をホームにする取組について意見聴取

○主な意見

- ・小学校では、みんなと一緒に朝の会で出席をとる。授業にずっとはいないけど、いってらっしゃい、という歓迎のムードはあった。
- ・昔は小学校も中学校も支援級が無かった。入学したら通常級が当たり前だった。
- ・希望したら行ける、目の前の学校に行く、というのが当たり前だし、そこがホームになる。
- ・幼いうちから支援級と通常級で分かれていることにより、「分断」の意識が根付いてしまうことを避けたい。
- ・多様な考え方を生かすことで、授業が充実する。
- ・大切なのは、自分で学ぶ環境を選べるということ。授業の在り方、教室の環境、教員の支援の仕方を考える必要がある。

※2回の会議とも、スーパーバイザーから講義あり

今後のインクルージョンへの理解・啓発に係る取組について

① 対話の場について

○集合型開催

- ・令和7年12月6日（土）10時～12時 @海老名市役所 401 会議室
- ・内容：これまでのフルインクルーシブ教育についての取組状況報告
参加者でグループになり、フルインクルーシブ教育について対話を行う。

○メタバース型開催

- ・令和7年10月28日（火）～11月28日（金）
- ・上記期間内に、10回程度スポットで参加者とグループディスカッションを実施
- ・定員20名
- ・テーマを設定し、指導主事をファシリテーターとして、参加者ととも意見交換を行う。
- ・各回1時間程度、事業説明や取組紹介も交える形で実施
- ・意見交換は基本、音声チャットを想定しているが、発声に不安がある方については、文字によるチャットで対応予定

② えびな市民まつりにおけるPRブースの出店について

- ・令和7年11月16日（日）10時～18時30分 @海老名運動公園
- ・フルインクルーシブ教育のブースを出展予定
- ・子どもや保護者を対象とし、フルインクルーシブ教育の要素（例えば、多様性など）を盛り込んだ体験活動を実施予定。体験活動を通して、フルインクルーシブ教育について関心をもっていただけるよう計画中

③ 令和8年度県内シンポジウム（仮）について

- ・令和8年度 下半期に実施予定
- ・主催：海老名市教育委員会 共催：神奈川県教育委員会
- ・令和6年度より県と連携して市が取り組んできた事業報告を行う。学校の包摂性を高める各校の取組（教育支援コーディネーターを中心とした校内支援体制、スペシャルサポートルーム、心の教室の取組、校内環境整備等）
- ・フルインクルーシブ教育の推進について、基調講演かパネルディスカッションを実施予定

海老名市の教育支援コーディネーターについて

学級をホームにしていく教育支援コーディネーター

海老名市は「すべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現」を目指し、新たに教育支援コーディネーター（以下、教育支援 Co）を設置しました。この教育支援 Co は、従来の教育相談コーディネーター（以下、教育相談 Co）を変更したもので、すべてのこどもが学級をホームとしてともに学ぶことができるよう、教育環境や支援のあり方などをコーディネートしていく役割を担います。

これまでの教育相談 Co との違い

これまでの教育相談 Co は、担任を持ったり、授業を多く持ったりしているため、コーディネーター業務は主として、特定のこどもや、苦戦している一部のこどもを対象とした支援（二次的、三次的な支援）が中心になりがちでした。

そこで海老名市では、フルインクルーシブ教育の推進にあたり、教育支援 Co として専任化し、これまでの業務に加えて、特にすべてのこどもへの支援（一次的な支援）の強化を重視していきます。これにより、すべてのこどもがともに学ぶことができる学級づくりや、学校全体での支援体制を確立します。

教育支援 Co は、教育環境を見直したり、学校にあるリソースの専門性を学級の中に取り込んだりすることで、すべてのこどもにとってホームとなる学級で必要な支援を受けることを可能にします。

教育支援 Co の具体的な役割

教育支援 Co は、すべてのこどもが学級をホームとして、ともに学び、必要な時に必要な支援を受けることができる環境を整え、フルインクルーシブ教育における学校や、学級のあり方を構築させる重要な役割を果たします。

また、学級をホームにするための取組を学校全体で推進することができるよう、教職員どうしを繋ぐようにコーディネートすることも重要な役割です。

- ① 必要とするすべてのこどもに対する「えびなっこ支援シート（個別の支援計画）」の活用
・支援シートの作成を通して、こどもたちひとりひとりの支援を共有し、教職員、保護者、スクールカウンセラー等の専門職、医療や福祉と連携し、教育支援体制の充実を

はかります。

- ・支援シートは、不登校の状態のこども、家庭事情、日本語の指導が必要等、様々な教育的ニーズがあることを踏まえて、保護者・学級担任と共に作成していきます。
- ② ひとりひとりの学びを保障する授業となるよう教職員間の連携をコーディネート
- ・すべてのこどもの学びを保障し、こどもの多様性を踏まえた学習展開をはかるため、校内の授業を見て回り、こどもの教育環境全体へアプローチします。
 - ・こどもどうしを繋ぐようにして、「協働的な学び」を支えます。
- ③ 校内にあるさまざまなリソースをホームである学級での支援に活用
- ・支援学級や通級指導教室、国際教室などの他の学び場でのこどもの姿を見取りながら、担当者どうしを繋いで情報共有をはかり、安心できる学級づくりを推進します。
- ④ 特別支援学校に通う市内在住の児童生徒の居住地交流を促進
- ・地域のリソースとしてえびな支援学校等を中心とした特別支援学校と連携し、センター的機能を活用した支援の充実をはかります。

教育支援 Co に求められる資質

- 校内でインクルージョンの意識醸成を推進できる。
- 学級をすべてのこどものホームとするための役割を自覚している。
- こどもに関わる様々な人どうしを、「つなぐ」役割を自覚している。

教育支援 Co を専任化する必要性

海老名市では、教育支援 Co がこれらの役割を十分に果たすためには、専任化する必要があると考えています。

そのことにより、教育支援 Co は学校全体を俯瞰的に把握し、ひとりひとりのこどもへの効果的な支援が行えるようになり、海老名市のフルインクルーシブ教育が推進されます。

教育支援 Co 情報連絡会(仮)の実施

学級をホームにするための各校の取組状況について情報共有するとともに、教育支援 Co の資質向上に向けた連絡会を年間 10 回程度開催する予定です。

令和7年度 有識者等による外部評価について

1. 目的

- 令和7年度のフルインクルーシブ教育推進市町村の取組における課題の明確化
- 次年度以降の取組に向けた助言

2. 評価者

- 有識者 より1名
- 教職員関係者 より1名
- 海老名市内保護者 より1名

3. 評価内容

- 令和7年度の取組における課題および令和8年度以降の取組に向けた助言

4. スケジュール

- 有識者による評価 令和8年2月上旬 ～ 3月中旬
- 評価結果の公表 令和8年5月下旬 ※第1回推進会議で報告後、HPで公表

(参考) 令和6年度

【評価者】

- 泉 真由子 氏 横浜国立大学 理事 (副学長)、D&I 教育研究実践センター長
- 島崎 直人 氏 神奈川県教職員組合 執行委員長
- 榎田 成 氏 海老名市 保護者

【評価方法】

- 各評価者から評価の観点等について事前にヒアリングを実施
- 各評価者を訪問し、評価材料、報告書について事前説明
- 各評価者から書面による報告
 - ・ 評価項目 ①組織体制 ②会議等実施状況 ③対話の場 ④総括
 - ・ 評価内容 令和6年度の取組における課題および令和7年度以降の取組に向けた助言

【評価材料】

原則、以下の資料に基づき、評価を実施する

- 協定書
- 「推進会議」(第1回～第3回)に係る議事概要、配付資料
- 「調査研究部会」(第1回～第4回)に係る協議概要、配付資料
- 「対話の場」(6月～1月)に係る実施要項、配付資料、参加者アンケート
(①市民 ②関係団体 ③教員 ④市民学習会 ⑤メタバース)
- 参考資料
 - ・ 海老名市教育大綱
 - ・ 海老名市立小・中学校の基礎資料
 - ・ 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会 (第1回～第5回)

令和8年度 有識者等によるアドバイザー委嘱について

1. 目的

- 海老名市内の小・中学校における実践的研究および様々な取組について、有識者等との定期的な対話を通してフルインクルーシブ教育をより推進する。
- 市内で開催する各種の会議・協議会等において、有識者等の講演および助言を通して、フルインクルーシブ教育の推進に向けた参加者の意識を醸成する。

2. 方法

- 有識者等を1年間を通して、アドバイザーとして任命
- 令和8年4月1日～令和9年3月31日の期間について、神奈川県教育委員会が委嘱し、海老名市の要望に応じて派遣